

兵庫県「姫路市自然観察の森」の生物相調査

【植生研究グループ 無名ゼミについて】

植生研究グループ 無名ゼミは、姫路市自然観察の森（敷地面積：約 60 ha）を主な活動場所として、里山保全に関する調査や自然環境に関わる勉強会などを行っています。無名ゼミは、兵庫県立大学森林生態学研究室の協力のもと、1992 年から毎年、姫路市自然観察の森にて植生の変化を見続けています。姫路市自然観察の森は、環境省のモニタリングサイト 1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）に選定されています。アース製薬の研究・生産拠点のある兵庫県へ貢献するため、今後、当社は無名ゼミと協力し、植生だけでなく土壌動物相の解明に取り組んでいくこととなりました。

【土壌動物相調査】

植生調査には、常時行っているルートセンサスによるモニタリングサイト 1000 向け調査（モニ 1000 調査）と 5 年ごとに行っているコドラート調査があります。土壌動物相調査は、植物相と土壌動物相との相関とその推移を知ることが目的に、2022 年 5 月から 2023 年 4 月にかけてこのコドラート調査に合わせて行われました。毎月 1 回、姫路市自然観察の森内に設定された 10 個のコドラート（区画）にて、リター（地面に堆積した落葉落枝）のシフティングを 10 分間行い、1L のリターを収集しました。その後、2 週間ウィンクラー装置にかけて土壌動物を抽出し、同定・カウントを行いました。土壌動物相調査を行うことで、その場所の自然の豊かさがわかります。生態系や生物多様性を保全するには、まずはその場所の自然度を把握することが重要です。当社は兵庫県拠点企業として、当社の持つ昆虫類に関する知識や技術を活用し、今後も兵庫県の生物多様性保全活動に貢献していきます。

